

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 29 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520387

研究課題名(和文)近代都市・青島における知識人の交流と文化空間の創成

研究課題名(英文) Research on an intellectual's exchange and creation of cultural space in modern city Qingdao

研究代表者

齊藤 大紀 (SAITO, Hiroki)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：70361938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：中国・山東半島南端に位置する青島は、地理的・歴史的な要因から日独中の文化が交錯した独自の近代化を遂げた都市である。中華民国期の青島における文学については、これまで系統的な共同研究がなされることがなかった。本研究では、1930年代を中心に、青島における作家の創作活動と交流、大学における教学、新聞・雑誌・教科書・辞書編集といった文化活動全体を詳細に検討し、近代都市・青島における文化空間の探求を行った。

研究成果の概要(英文)：Qingdao located in the southernmost end of the Shangdong peninsula in China is the city which accomplished the original modernization with which the culture in Japan, German and China mingled by the geographical and historical factor. Joint research project systematic until now was not made about the literature in Qingdao of the Republic of China term. In this research, focusing on the 1930s, We considered a writer's creative activity in Qingdao, and whole exchange, education in a university and cultural activities, such as a newspaper, a magazine, a textbook, and dictionary edit, in detail, and searched for the cultural space in modern city Qingdao.

研究分野：中国文学

キーワード：中国現代文学 青島 国立青島大学 沈從文 楊振声 王統照 孫陵

1. 研究開始当初の背景

山東省南部に位置する青島は、海外への窓口としての地理的な機能と租借地という歴史の中で他のどの都市とも異なる独自の歴史を歩んだ。その近代化の最初期にドイツによる都市整備を経た後、日本の統治を受けてからは、日独中の文化の混淆する都市空間が出現した。そのため青島では、英字紙、中国語紙をあわせ地方都市にしては驚くほど多様な新聞が発行されていた。

また比較的北京に近いことから在北京の知識人との人的交流も盛んであり、1930年代、当時新設校の青島大学には楊振声を中心に梁実秋・聞一多・老舎・沈從文などの著名な作家・知識人が教員として着任し、新文化建設の機運に満ちていた。そして代表的な受業生に、詩人の臧克家らがいる。彼らは雑誌や新聞文芸欄の編集を通じて作家活動をする傍ら、大学人として叢書・教科書・辞書の編纂に従事するという、極めて濃密な文化活動を続けていた。いわば青島は、地理的な要因による特異性と、租借地という開放性の交差した、文化研究の恰好のフィールドであると言えるのである。

また中華民国期の青島における文学活動については、これまで系統的な共同研究がなかったため、本研究によってその解明のための第一歩を踏み出す必要があった。

2. 研究の目的

本研究では、歴史的な近代都市・青島の文化的独自性を究明するとともに、文学研究という立場から、青島に関連する諸作家の諸作品を収集、読解することを通し、彼らの思想形成の道程や作家間の交流や影響による思想的展開といった、作家個人の内面の究明を行う。それにより都市文化研究に青島という視点から新たな地平を開くことを図る。

共同研究に携わる5名はいずれも文学研究者であり、教学の場としての青島大学における人材育成の研究という制度史的側面に目配りしつつも、主に1930年代青島に集った文化人の創作活動や交流、新聞・雑誌・教科書・辞書編集といった観点から青島における文化空間の様相の一端を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、5名の共同研究者が、青島の文化空間創成に関するテーマを選定して、共同研究を行った。そこから得られた知見を共有しながら、同時に各自の専門分野に関する個人研究も実施することとした。

これに関連して、青島・煙台・蓬萊・北京・

上海・大連等における実地調査および資料収集を行い、日本国内にあっては入手困難な資料を入手した。また青島の都市空間を実地調査することによって、その文化空間の地理的様相等を確認・究明することを行った。

4. 研究成果

平成24年度は、青島の歴史・文化について基礎的知識の共有を目指し、青島における実地調査および資料収集、国内開催の研究会における資料の紹介・講読等が行われた。実地調査では、青島市立図書館や沈從文・梁実秋・老舎・康有為らの旧居を訪問し、資料の収集を行った。実地調査では、中国現代文学を代表する作家の沈從文が代表作『辺城』を執筆するに際してモデルの取材を行ったとされる青島近郊の北九水を訪問し、作品理解の一助とすることができた。

平成25年度は、1930年代の青島における知識人ネットワークと文化空間の創成に関して、個別の知見の蓄積を行い、それとともに2回の研究会を開催して知見の共有化を図った。その際には、わが国においてはこれまで研究が少なかった楊振声・王統照・孫陵を初めとする諸作家が論じられ、青島をキーワードとすることで中国現代文学の新たな一側面の発見を行うことができた。これに加えて青島等で撮影された中華民国期の映画作品を検討する機会を持った。

平成26年度は、青島・煙台・蓬萊・北京等における補完的な実地調査および資料収集がなされた。特に蓬萊においては、著名作家であり、1930年代に国立青島大学校長をつとめた楊振声の生家跡を確認することができ、楊振声研究者である季培剛氏と蓬萊市文化館において交流することができた。また近畿大学において研究例会、富山大学においてシンポジウムを開催し、青島のみならず、青島も含めた近代中国のリゾートと都市という文化的事象も含めて、今後の研究の方向を見すえつつ、検討を行った。

本研究においては、まず青島関連の歴史・文学活動に関して実地調査による知見の深化および資料の収集が図られた。資料の中には、国内で入手しにくいものも存在し、青島関連資料の蓄積という点で、大きな成果が上げられた。これらの資料の蓄積にもとづき、これまで日本における中国現代文学研究において論じられることの少なかった上述の各作家について研究を進展させることができた。

本研究でなされた研究を発展させ、今後、国立青島大学のみならず、青島市立中等等の青島の他の教育機関における文学活動の究明、中国における近代リゾートの受容、現代中国における海をテーマとする文学の解明といったテーマが新たに浮上するところとなっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

(1) 齊藤大紀、第 4 章文学 2 中華民国：こんなはずじゃなかった文学史、中国モダニズム研究会『中国現代文化 14 講』(関西学院大学出版会) 査読無、43-58 頁、2014 年 10 月

(2) 杉村安幾子、ロミオはジュリエット 楊振声「彼女はなぜ突然気が触れたか」と凌叔華「こんなこともある」、『言語文化論叢』(金沢大学外国語教育研究センター紀要) 第 19号、査読無、平成27年3月、pp119-141

(3) 杉村安幾子、第 8 章映画：銀幕に映し出される激動の歴史と人々、中国モダニズム研究会『中国現代文化 14 講』(関西学院大学出版会) 査読無、95-108 頁、2014 年 10 月

(4) 杉村安幾子、楊振声と「五四」 楊振声の「五四」、『野草』(中国文芸研究会) 第 94 号、査読有、41-60 頁、2014 年 8 月

(5) 杉村安幾子、楊振声『捨親』・『報復』と民国期中国の強奪婚—少女は語らない、『言語文化論叢』(金沢大学外国語教育研究センター紀要) 第 18 号、査読無、83-105 頁、2014 年 3 月

(6) 中野徹・日野杉匡大(共著) 第 14 章レファレンスのために：書を求めて、町に出よう、中国モダニズム研究会『中国現代文化 14 講』(関西学院大学出版会) 査読無、175-194 頁、2014 年 10 月

(7) 高橋俊、第 11 章香港：『買い物天国』のこれまでとこれから、中国モダニズム研究会『中国現代文化 14 講』(関西学院大学出版会) 査読無、135-147 頁、2014 年 10 月

(8) 中野知洋、第 5 章文学 3 中華人民共和国：英雄の活躍から自分探しへ、中国モダニズム研究会『中国現代文化 14 講』(関西学院大学出版会) 査読無、59-68 頁、2014 年 10 月

(9) 中野知洋、青島と台湾海峡 孫陵「紅豆」を巡って、『学大国文』第 57 号、査読無、2014 年 10 月

(10) 齊藤大紀、もつれあうエキゾティシズム—沈從文『在別一個国度裏』を読む、『野草』(中国文芸研究会) 第 92 号、査読有、43-61 頁、2013 年 8 月

(11) 杉村安幾子、楊振声「抛錨」・石華父『海葬』・柯霊『海誓』をめぐって—恋愛と復讐の変奏、『お茶の水女子大学中国文学会報』第 32 号、査読有、17-33 頁、2013 年 4 月

(12) 高橋俊、上海の広東人 - 穆時英の小説から、『高知大国文』(高知大学国語国文学会) 第 44 号、査読無、54-65 頁、2013 年 12 月

(13) 中野知洋、『沈從文全集』未収録作品三編、『学大国文』(大阪教育大学国語教育学講座・日本・アジア言語文化講座) 第 56 号、査読無、19-38 頁、2013 年 3 月

(14) 杉村安幾子、銭鍾書『イソップ寓話を讀む』から見える風景—イソップを子供に読ませるな、『言語文化論叢』(金沢大学外国語教育研究センター紀要) 第16号、査読無、87-107頁、2012年3月

(15) 中野知洋、2012「日本留学前後の昔今小説」、中野知洋、『学大国文』第 55 号、査読無、15-28 頁、2012 年 3 月

[学会発表](計 7 件)

(1) 中野知洋、王平陵「旋渦」をめぐって、中国文芸研究会例会、2015 年 1 月 25 日、関西学院大学

(2) 杉村安幾子、楊振声と五四 楊振声の五四、中国文芸研究会例会、2013 年 10 月 27 日、同志社大学

(3) 中野徹、劉知侠と“鉄道遊撃隊” “史実”と“物語”の相克、東アジア勉強会、2013 年 12 月 8 日、京都大学

(4) 高橋俊、上海の広東人 穆時英の小説から、日本現代中国学会関西西部会大会、2013 年 6 月 8 日、龍谷大学

(5) 中野知洋、孫陵の青島、中国モダニズム研究会 2013 年度第 2 回研究例会、2013 年 12 月 14 日、関西学院大学

(6) 杉村安幾子、楊振声「抛錨」・石華父『海葬』・柯霊『海誓』をめぐって 恋愛と復讐の変奏曲、お茶の水女子大学中国文学会第 24 回例会、2012 年 12 月 1 日、お茶の水女子大学

(7) 中野徹、“英雄”の変相の変相 連環画『鉄道遊撃隊』をめぐって、近現代戦の表象比較研究「戦争のメモリー・スケープ」2012 年 7 月 15 日～16 日、北海道大学

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齊藤 大紀 (SAITO HIROKI)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：70361938

(2) 研究分担者

高橋 俊 (TAKAHASHI SHUN)

高知大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10380297

中野 徹 (NAKANO TORU)

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：20610512

杉村 安幾子 (SUGIMURA AKIKO)

金沢大学・外国語教育センター・准教授

研究者番号：50334793

中野 知洋 (NAKANO TOMOHIRO)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70372638

(3) 連携研究者

無し